

## ブルーテック 廃石膏粉の新ビジネス展開 ブルテック 固化材活用でCO<sub>2</sub>相殺

廃石膏ボードを原料にした地盤改良材・固化材など環境負荷の少ない商品の販売・開発をするブルーテック（堺市北区、小林清社長、☎072・2555・2022）は、

同社の販売する固化材にCO<sub>2</sub>排出量に相当する排出枠を付与したカーボンオフセット商品を発売した。

同社は、業界に先駆けてCO<sub>2</sub>排出量を分析する、ライフサイクルアセスメント（LCA分析）を実施。その結果によると、一般のセメント系固化材が718ポンドの排出量に対し、同社の地盤改良・固化材「アトムシックス」は、製品1ト当たりのCO<sub>2</sub>の排出量が368ポンドで、48%も削減できているという。加えて今回、CO<sub>2</sub>排出の全量

相当をオフセットできるように排出枠をリサイクルルワン（東京）から購入して、固化材のユーザーに提供できるような仕組みを構築した。

同社の連携する企業として、アドバンテック（大阪府岸和田市）が廃石膏ボードの中間処理と固化材の製造を担う。産業廃棄物の収集運搬やサイロのリースを行う中央興産（大阪府）は、廃石膏ボードに加えてフライアッシュなどの粉体の廃棄物を運ぶためローリー型の車両での収集運搬の許可を取得した。さらに天然ガス車も2台所有するなど。3社が環境負荷低減に努めながらネットワークを築き、廃石膏ボードの回収から処理、再利用、製品化までの循環を可能にした。